

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウスみずほ館		
所在地	江別市あけぼの町51番地13		
自己評価作成日	平成26年7月7日	評価結果市町村受理日	平成26年8月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0191000082-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0191000082-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

北海ケアサービス(株)の理念である「笑顔で、明るく、優しく」を基本としており、全職員で決定したケア目標「私達は地域とのふれあいの中で、入居者様の思いに寄り添います。日々の変化に気づき入居者様が笑顔で生活できるよう支援します。」を目指している。常に個別ケア、尊厳、言葉使いを意識して関わっている。天気の良い日の散歩を入居者はとても楽しみにしており、花を見たり摘んだり、畑の野菜の成長、収穫した時等笑顔が見られる。収穫した野菜が料理され食卓に並んだり、摘んできた花をテーブルに飾ったりして会話が弾む。看護師が常勤でいるので、日々の入居者の健康管理、緊急時の対応も医療機関と密に連携がとれる体制になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 北海ハウスみずほ館」はバス停から近く、緑が豊かで静かな住宅地に立地している。平成21年の開設時から、近隣の幼稚園やケアハウスと交流し自治会との関係を積極的に進めている。介護状態が徐々に重くなり、外出時には安全面に配慮し事業所内で交流する機会を充実させている。地域の多種のボランティア訪問が月に4回ほどあり、ボランティアと利用者は顔馴染みになっている。看護職員を中心に各主治医と関係を築き、家族の意向に沿って看取りを実施している。運営推進会議に消防署職員が参加することもあり、定期的な火災避難訓練時に住民の参加を得て実施している。管理者は職員の育成に熱心に取り組み、その指導の下に介護福祉士の資格取得者も多い。職員は内外の研修の中で身体拘束の弊害を理解し、利用者の自由な行動と見守りを強化してユニット間の協力体制をとっている。各職員は年の目標を立て、達成度を確認しながら質の高いケアを提供している。担当職員のモニタリング記録を基に全員で介護計画を見直し、計画に沿って個別ケアを実践している。利用者は新鮮な食材で豊かな食事を楽しみ、個人的な買い物や希望に応じて誕生日には外食などを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(1階ばらアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の他に、事業所独自のケア目標を作成し「私達は地域とのふれあいの中で入居者様の思いに寄り添います。日々の変化に気づき入居者様が笑顔で生活できるよう支援します」を旨とし、毎日の朝礼で全職員が目標を共有している。	法人事業所共通の運営理念の他、年に2回は独自のケア目標達成度を全員で確認している。目標にある地域とのふれあいを継続し、必要に応じて後半を作り直している。管理者は「利用者中心のケア」を確認し、常に理念の意識化を促している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩で近隣の方と挨拶をしたり自治会の方が、救命講習、防災訓練と一緒に参加している。地域のボランティアさんに毎月来て頂き、馴染みの関係になっている。	自治会行事や清掃活動に参加したり、幼稚園の運動会を見に行くなどして住民と交流している。多種のボランティア訪問が定期的であり、利用者は楽しみに待ち、馴染みの関係になっている。今年の「みずほまつり」には住民の招待を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員のほとんどが実践者研修に参加し、専門的な知識関わり方を理解している。地域の方、家族の方が来訪された時に活用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、行事、認知症のミニ勉強会等を行う事で委員の方々と意見交換、体験談等話し合いの場にもなっており、様々な意見をサービス向上に生かしている。	会議では各報告の他、研修報告をミニ勉強会として行い、認知症について意見を交換している。年に1回は消防署職員も参加し、防災について話題にしている。サービス評価の結果と議事録を全家族に送付しているが、会議案内を全員には送付していない。	大まかなテーマを設定した年間計画を全家族に送るとともに、各会議案内にテーマの意見が得られるような工夫で、家族の関心や参加に繋がるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と電話、訪問時等、密に連絡をとり、話をする機会を作り連携している。相談事は必ず訪問して課題を解決する。	分からない事があれば、市に出向いて書類の内容を相談し解決に繋げている。情報を収集し、「高額療養費制度」などを家族に紹介している。生活保護や介護保険課の担当者とは連絡を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修で虐待防止、身体拘束をしないケアの研修を受け、職員間で正しい知識を理解している。	年に数回は内外の研修で身体拘束の弊害を学び、禁止の対象となる具体的な行為も正しく理解している。禁止語などの言葉遣いに注意し、どうしたいのか利用者の思いを汲み取り、外に出たい時は行動を共にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員会議で全職員に報告、どのような行為が虐待になるか把握し、職員の意識を述べる事も設けている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から日常生活自立支援事業について相談されたことはある。社会福祉協議会よりパンフレットを頂き家族に説明をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム入居時の契約締結、解約・改定等の説明は利用者が理解、納得するのは難しいが、家族等には理解が得られるよう十分な説明を行い、不安や疑問点に答えられるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁に訪問してくれる家族には、利用者の現状を詳しく説明し、なかなか訪問出来ない家族には電話、手紙等で現状を説明、2ヶ月に1度「みずほ便り」を発行し日常の様子を写真に撮り掲載はすることで家族より意見要望を伝えてくださり運営に反映している。	「みずほ便り」に事業所の全体的なお知らせと、本人の写真などを載せて個別に送っている。家族の来訪時には暮らしや健康の様子を報告する中で意見を聞いている。申し送り時に対応を話し合い、支援経過や個別日誌に記録して共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を年2回～3回行い、悩み、職員の目標等を聞き、職員一人ひとりが成長を実感できるようサポートしている。	リーダーは事前に全職員の意見を収集し、現場の意向を反映した会議になっている。また職員は各担当を受け持ち運営にも参加している。個人面談で管理者は本人の目標達成度を話し合い、個人的な悩みを聞いて働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チームケアを行う上で、職場環境、人間関係が良好になるように努めている。職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し、やりがいをもって仕事ができるように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、講習会に職員を参加させ、受講した職員は会議で報告発表している。また、外部より講師を招き、内部研修も開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、市内にあるグループホームでグループホーム交流会、講演会を開催しており準備の為毎月1回担当職員が集まって会議を行っている。また定期的に、各グループホームの管理者や職員が集まって意見交換できるよう会合を開きサービス向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞き、以前の生活習慣を尊重している。要望や不安に耳を傾け、安心して生活できるような信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と不安や要望等あらゆることについて話し合い、思いを受け止め、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を望み、どのようなサービスを希望しているのかを把握し、的確なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者が出来ることを見極め、共に日常で支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な便りや、家族の来訪時に職員から入居者の日常の様子を伝えることで、入居者、家族、職員との意思の疎通を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の来訪、外出、外泊等を通してこれまでの関係が継続できるよう努めている。入居者の友人、知人がいつでも気軽に来れる明るい雰囲気作りに配慮している。	宗教関係の知人や友人の来訪があり、毎月来られる方もいる。昔からの美容室の訪問美容を利用したり、職員の同行で馴染みの美容室に出かける方もいる。定期的なボランティアの来訪は、馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切にして、毎日の生活の中での食事、アクティビティ、行事等、職員も交じり、楽しく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも来訪、電話を受け、相談、支援を行なえるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族から、希望や意向を聞き、また、共に過ごす日常の中で思いを汲み取り、ケアプランに反映して実行している。	言葉に出せない思いを表情や態度から把握している。状態が変わった時はセンター方式のアセスメント表を作り直し、3か月毎の介護計画見直し時に新しい情報を「モニタリング記録」に追加している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境を入居者本人と家族からアセスメントしフェイスシートに記録、それを読むことで職員全員が情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の変化を個別日誌に記録し職員全員が把握、入居者に合わせた支援ができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを更新する際は、カンファレンスにてモニタリングを行い、本人、家族の意向に添うよう、ケアプランに反映している。	担当職員のモニタリング記録を基にカンファレンスで意見を交換し、介護計画を作成している。解かる利用者には一緒に計画を作り、内容を説明している。計画の見直しを全職員で行っているが、記録が十分に活かされていない面も見られる。	利用者側の視点を活かし、アセスメントシートの充実に期待したい。また介護計画に運動した日々の記録「個別日誌」に目標の変化等も記録し、次回の見直しに繋がるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌には、入居者の状態をできるだけ細かく記入するようにし、職員間で情報を共有することで、日々のケアやケアプランに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々なボランティアの方に来て頂いたり、必要であれば主治医以外の病院受診をする等、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し新年会、防災訓練、幼稚園児との交流、ボランティアの方々の来訪などで入居者の体調に合った参加を工夫し、無理のない安全な生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の身体を把握している医療機関と提携し、月2回の定期訪問診療、急変時の受診、往診の支援、入居者とその家族が希望するかかりつけ医を大切にして受診の支援をしている。	半数の利用者は「かかりつけ医」を継続しており、ほぼ職員が同行している。協力医の訪問診療もあり、主治医との関係を築きながら適切な受診に繋がっている。受診内容は看護日誌、支援経過、個人日誌に記録しているが、個人ごとに記録の整理を考えている。	

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者のいつもと違う体調の変化に気づいた時、看護師に相談し、受診が必要であれば、すみやかに病院へ連絡し受診する。また、家族の方に報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院の相談員との情報交換を行っている。入院の際は職員が同行し状態を細かく伝え、退院の際の主治医から家族への説明時には同席させて頂き、その後の生活に支障がないように病状の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りに対しての説明を行っている。容態の変化、重度化した場合には、家族と話し合いを持ち方針を共有、意向に添った支援に取り組んでいる。	入居時に文書で対応方針を説明し、状態が変わった時には、その都度話し合っている。主治医の判断の下、終末期には看取りを含めて家族と再確認し同意書を得ている。個人ファイルの裏表紙に確認書を貼り、対応を明確にして共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、救命救急講習を職員全員で受講している。急変時緊急対応マニュアルを作成しており、日頃から確認、周知を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施しており、地域の方にも参加して頂きながら、緊急事態発生時に入居者の身の安全を守る行動が取れるよう訓練を行っている。	昼夜を想定した火災避難訓練には誘導後の見守りで近隣住民も参加している。事業所内で地震を想定し、避難場所やケア場面での対応を確認している。災害備蓄品を保管しているが、オール電化なので停電時の対応を本部と話し合っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者がその人らしく生活出来るようにプライバシーを確保し居室でゆったり過ごせるように声掛け気配りに配慮している。	「目標達成計画」に掲げて言葉かけについて研修を行い、ため口や友達言葉を使わないように指導している。個人記録も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望を言葉だけでなく表情や行動から汲み取り、入居者が自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合った役割を提供したり、一人で過ごしたい方はゆっくりと過ごせるよう支援している。他者との交流が好きな方にはトランプやゲーム、カラオケ等アクティビティを用意し希望に合わせて実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、また季節に合った衣類を自己決定できるよう支援している。また、定期的にかット、パーマをかけて整容している。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせた食器を使用し、自ら食べられるよう支援している。また、彩りや季節の食材を使ったメニューで目からも楽しめるようにしたり、入居者のテーブルには職員が必ず座り、会話をしながら食事をしている。	献立は、道産品や地元の食材を豊富に取り入れながら職員が作成し、器や彩りにも配慮した食事を提供している。三ツ星レストランなどのお弁当や赤飯の日を、毎月定期的に設けている。利用者と一緒に収穫した畑の野菜が食卓に上がる事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態を把握し、きざみ食や水分にとろみを付けて提供するなど安全に食べられるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに合った口腔ケアを促し、必要な場合は介助を行っている。また、定期的に訪問歯科の診療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。また、カンファレンスを定期的に関き、パット、おむつの使用状況を話し合い、場合によっては使用を中止している。	全員の排泄を記録して、日中はトイレでの排泄を支援している。利用者の状況に応じて、安全面に配慮して夜間のみおむつを使用する事もある。失禁が多くなった時もすぐにパットの大きさを変えずに、声かけの間隔を調整して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で入居者一人ひとりの排泄状況を把握し、3日間排便がない場合は下剤を服用する等、個々に合わせた対応をしている。また、飲み物にオリゴ糖を入れて提供する等、排便を促す工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望に合わせて入浴する時間を調整している。また、入浴剤を入れ色や香りですりやすくできる空間を作っている。	毎日、午後の時間帯で各利用者が週2回以上入浴できるように支援している。入浴順や本人の状況に応じて気の合う職員などが対応しながら、入浴が楽しめるように工夫している。年2回温泉に出かけたり、他のユニットで入浴する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活習慣を把握し、入居者の状態に応じて、午前、午後と臥床する時間を設ける等、無理なく生活出来るよう配慮している。また、日中の水分摂取量や居室の温度、湿度に気を付け入居者が安眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬剤情報書を添付し、職員全員が理解できるように努めている。また介護日誌や看護日誌を確認したり、申し送りカンファレンス等で病状と薬の変更を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る役割や楽しみを見つけ充実した日々を過ごしてもらえるよう支援している。新しいボランティアを招いたり、新しい行事に挑戦したりと入居者の楽しみごとを増やしている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 ばら)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、受診、買い物、郵便局等、希望にそって外出できるように支援している。その日に外出できない場合は後日対応している。外食、花見、温泉、紅葉狩り等、外出できるように努めている。	毎日9時～10時を散歩の時間として日課に組み込み、利用者の身体状況に応じて敷地内や近隣の散歩を楽しんでいる。個別の外出も多く、日々の買い物やドライブの他、誕生日には、希望に応じて外食や観光名所などに出かけている。冬季も、個別の買い物などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は、化粧品や宝くじ等希望に応じて外出し使用している。金銭管理契約で預かり金のある方は日用品等不足した時に購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があった時や心身の状態、家族との関係を考慮して使用してもらっている。入居者の状態によっては、家族に面会をお願いする場合もある。手紙は希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、温度管理等を毎日行い安心して過ごせる環境を整え、また共用の空間には季節に合った装飾を取り入れることで入居者が居心地のよい空間作りを工夫している。	全利用者が落ち着いて過ごせるような環境整備に配慮し、シンプルで清潔感のある共用空間作りを行っている。居間や廊下は大きな窓から明るい光が注ぎ、お花や絵画、季節の七夕飾りなどが品良く飾られており温かさが感じられる。また、廊下の掲示板を利用して利用者の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には3人がけのソファが設置しており、一人でも複数でも自由に座って過ごすことができるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等使い慣れた物を持ち込み使用している。必要になった物は自宅に使い慣れた物があるかどうか家族に確認し、使える場合はそれを優先的に使用している。	各居室に、衣服などが掛けられるポールを備え付けている。ベッドやタンス、仏壇、馴染みの小物類などを持ち込んで、各利用者が使いやすいように配置している。家族の写真や本人の作品を壁などに飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態に合わせて職員の介入度を変え、カンファレンスを行い状態の変化に応じて安全で自立した生活を送れるように支援している。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000082		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウスみずほ館		
所在地	江別市あけぼの町51番地13		
自己評価作成日	平成26年7月7日	評価結果市町村受理日	平成26年8月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階ばら ユニット)と同じ
---------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0191000082-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0191000082-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年7月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階ゆりアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の他に、事業所独自のケア目標を作成し「私達は地域とのふれあいの中で入居者様の思いに寄り添います。日々の変化に気づき入居者様が笑顔で生活できるよう支援します」を目指し、毎日の朝礼で全職員が目標を共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩で近隣の方と挨拶をしたり自治会の方が、救命講習、防災訓練と一緒に参加している。地域のボランティアさんに毎月来て頂き、馴染みの関係になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員のほとんどが実践者研修に参加し、専門的な知識関わり方を理解している。地域の方、家族の方が来訪された時に活用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、行事、認知症のミニ勉強会等を行う事で委員の方々と意見交換、体験談等話し合いの場にもなっており、様々な意見をサービス向上に生かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と電話、訪問時等、密に連絡をとり、話をする機会を作り連携している。相談事は必ず訪問して課題を解決する。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修で虐待防止、身体拘束をしないケアの研修を受け、職員間で正しい知識を理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、職員会議で全職員に報告、どのような行為が虐待になるか把握し、職員の意識を述べる事も設けている。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ゆり)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から日常生活自立支援事業について相談されたことはある。社会福祉協議会よりパンフレットを頂き家族に説明をした。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム入居時の契約締結、解約・改定等の説明は利用者が理解、納得するのは難しいが、家族等には理解が得られるよう十分な説明を行い、不安や疑問点に答えられるようにしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁に訪問してくれる家族には、利用者の現状を詳しく説明し、なかなか訪問出来ない家族には電話、手紙等で現状を説明、2ヶ月に1度「みずほ便り」を発行し日常の様子を写真に撮り掲載はすることで家族より意見要望を伝えてくださり運営に反映している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を年2回～3回行い、悩み、職員の目標等を聞き、職員一人ひとりが成長を実感できるようサポートしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チームケアを行う上で、職場環境、人間関係が良好になるように努めている。職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し、やりがいをもって仕事ができるように整備している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、講習会に職員を参加させ、受講した職員は会議で報告発表している。また、外部より講師を招き、内部研修も開いている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、市内にあるグループホームでグループホーム交流会、講演会を開催しており準備の為毎月1回担当職員が集まって会議を行っている。また定期的に、各グループホームの管理者や職員が集まって意見交換できるよう会合を開きサービス向上に繋げている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞き、以前の生活習慣を尊重している。要望や不安に耳を傾け、安心して生活できるような信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と不安や要望等あらゆることについて話し合い、思いを受け止め、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を望み、どのようなサービスを希望しているのかを把握し、的確なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者が出来ることを見極め、共に日常で支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な便りや、家族の来訪時に職員から入居者の日常の様子を伝えることで、入居者、家族、職員との意思の疎通を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の来訪、外出、外泊等を通してこれまでの関係が継続できるよう努めている。入居者の友人、知人がいつでも気軽に来れる明るい雰囲気作りに配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切にして、毎日の生活の中での食事、アクティビティ、行事等、職員も交じり、楽しく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも来訪、電話を受け、相談、支援を行なえるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族から、希望や意向を聞き、また、共に過ごす日常の中で思いを汲み取り、ケアプランに反映して実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境を入居者本人と家族からアセスメントしフェイスシートに記録、それを読むことで職員全員が情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の変化を個別日誌に記録し職員全員が把握、入居者に合わせた支援ができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを更新する際は、カンファレンスにてモニタリングを行い、本人、家族の意向に添うよう、ケアプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌には、入居者の状態をできるだけ細かく記入するようにし、職員間で情報を共有することで、日々のケアやケアプランに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々なボランティアの方に来て頂いたり、必要であれば主治医以外の病院受診をする等、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し新年会、防災訓練、幼稚園児との交流、ボランティアの方々の来訪などで入居者の体調に合った参加を工夫し、無理のない安全な生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の身体を把握している医療機関と提携し、月2回の定期訪問診療、急変時の受診、往診の支援、入居者とその家族が希望するかかりつけ医を大切にして受診の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ゆり)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者のいつもと違う体調の変化に気づいた時、看護師に相談し、受診が必要であれば、すみやかに病院へ連絡し受診する。また、家族の方に報告し対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院の相談員との情報交換を行っている。入院の際は職員が同行し状態を細かく伝え、退院の際の主治医から家族への説明時には同席させて頂き、その後の生活に支障がないように病状の把握に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りに対しての説明を行っている。容態の変化、重度化した場合には、家族と話し合いを持ち方針を共有、意向に添った支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、救命救急講習を職員全員で受講している。急変時緊急対応マニュアルを作成しており、日頃から確認、周知を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施しており、地域の方にも参加して頂きながら、緊急事態発生時に入居者の身の安全を守る行動が取れるよう訓練を行っている。			

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者がその人らしく生活出来るようにプライバシーを確保し居室でゆったり過ごせるように声掛け気配りに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望を言葉だけでなく表情や行動から汲み取り、入居者が自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合った役割を提供したり、一人で過ごしたい方はゆっくりと過ごせるよう支援している。他者との交流が好きな方にはトランプやゲーム、カラオケ等アクティビティを用意し希望に合わせて実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、また季節に合った衣類を自己決定できるよう支援している。また、定期的にかット、パーマをかけて整容している。		

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ゆり)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせた食器を使用し、自ら食べられるよう支援している。また、彩りや季節の食材を使ったメニューで目からも楽しめるようにしたり、入居者のテーブルには職員が必ず座り、会話をしながら食事をしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態を把握し、きざみ食や水分にとろみを付けて提供するなど安全に食べられるよう配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに合った口腔ケアを促し、必要な場合は介助を行っている。また、定期的に訪問歯科の診療を受けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。また、カンファレンスを定期的に行き、パット、おむつの使用状況を話し合い、場合によっては使用を中止している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で入居者一人ひとりの排泄状況を把握し、3日間排便がない場合は下剤を服用する等、個々に合わせた対応をしている。また、飲み物にオリゴ糖を入れて提供する等、排便を促す工夫をしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの希望に合わせて入浴する時間を調整している。また、入浴剤を入れ色や香りでもリラックスできる空間を作っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活習慣を把握し、入居者の状態に応じて、午前、午後と臥床する時間を設ける等、無理なく生活出来るよう配慮している。また、日中の水分摂取量や居室の温度、湿度に気を付け入居者が安眠できる環境を整えている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬剤情報書を添付し、職員全員が理解できるように努めている。また介護日誌や看護日誌を確認したり、申し送りカンファレンス等で病状と薬の変更を把握している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る役割や楽しみを見つけ充実した日々を過ごしてもらえるよう支援している。新しいボランティアを招いたり、新しい行事に挑戦したりと入居者の楽しみごとを増やしている。			

グループホーム 北海ハウスみずほ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ゆり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、受診、買い物、郵便局等、希望にそって外出できるように支援している。その日に外出できない場合は後日対応している。外食、花見、温泉、紅葉狩り等、外出できるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は、化粧品や宝くじ等希望に応じて外出し使用している。金銭管理契約で預かり金のある方は日用品等不足した時に購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があった時や心身の状態、家族との関係を考慮し使用してもらっている。入居者の状態によっては、家族に面会をお願いする場合もある。手紙は希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、温度管理等を毎日行い安心して過ごせる環境を整え、また共用の空間には季節に合った装飾を取り入れることで入居者が居心地のよい空間作りを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には3人がけのソファが設置しており、一人でも数人でも自由に座って過ごすことができるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等使い慣れた物を持ち込み使用している。必要になった物は自宅に使い慣れた物があるかどうか家族に確認し、使える場合はそれを優先的に使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態に合わせて職員の介入度を変え、カンファレンスを行い状態の変化に応じて安全で自立した生活を送れるように支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 北海ハウスみずほ館

作成日：平成 26年 8月 14日

市町村受理日：平成 26年 8月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	入居者の現状に即した介護計画を作成しているが、介護計画目標のサービス内容の達成できた記録は記入されているが、達成できなかった場合の記録が少ない。	利用者側の視点を活かし、アセスメントシートの充実と介護計画に連動した日々の記録「個別日誌」の変化等記録する。	介護計画、短期目標更新時に、センター方式B-3(私の暮らし方シート)、D-1(私ができること・私ができないことシート)、D-2(私ができること・私ができないことシート)の見直しを実施し、アセスメントシートの充実を行い、次回の見直しに繋げる。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。